

ダムの洪水調節について

国土交通省

九州地方整備局 河川部

建設専門官 浦山 洋一

「川辺川ダムのデータに疑問」（5月31日）の投稿につきまして、九州地方整備局河川部としての考えを述べたいと思います。

「洪水調節に必要なダムの容量」と「ダムの洪水調節効果」については、過去に発生した様々な洪水や降雨のデータを基本として、河川管理者（国交省や都道府県など）が治水計画を策定する際に、一般的に用いられている方法により算出しています。決して特別な手法を使っているわけではありません。

また、ダムによる洪水調節は、計画規模を超える洪水においても、基本的にダム上流から入ってくる水量以上に下流に放流することはないように操作を行うため、ダムがない場合と比べて下流の被害を大きくすることはありません。

一般の方は、ダムによる洪水調節の現場を見る機会はほとんどなく、洪水調節をイメージすることは大変難しいと思われます。その

点を分かりやすく地域の方に説明することが、私たちの課題であると思います。

国交省では、現在、5月11日に策定された球磨川水系整備基本方針について、地域の方に報告会を行っています。このような機会を通じて、地域の方の理解が深まれば幸いです。